

札幌市まちづくり

戦略ビジョン

ビジョン編

【概要版】

SAPPORO
2013-2022
平成25~34年度

札幌市

札幌市はこれまで、人口の増加や市域の広がりなど、量的な拡大を背景に、「札幌市基本構想」と4次にわたる「札幌市長期総合計画」に沿って、計画的なまちづくりを進め、身近に感じられる豊かな自然と北海道の中心都市にふさわしい都市機能が調和した魅力的なまちとして、国内外から高い評価を受けてきました。そして何より、多くの市民が札幌に愛着を持ち、このまちに住み続けたいと感じています。

一方で今後、人口減少や、かつて経験したことのない超高齢社会の到来、さらには、エネルギー政策の見直しが求められるなど、これまでの右肩上がりの社会構造を前提とした価値観は大きく変わりつつあり、時代の分岐点とも言うべき転換期を迎えようとしています。

こうした状況においても、都市の魅力・活力と生活の質を高め、世界に誇るこのまちの輝きを未来に引き継いでいくために、この度、今後10年間の新たなまちづくりの基本的な指針として、「札幌市まちづくり戦略ビジョン<ビジョン編>」を策定しました。

このビジョンでは、私たちが目指す将来のまちの姿として、「目指すべき都市像」を掲げるとともに、これを実現するための「まちづくりの基本目標」を設定し、今後のまちづくりの方向性を具体的にイメージできるように、市民、企業、行政などがそれぞれの立場で取り組むべきことを明記しています。

また、本ビジョンは、「市民計画」として、札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会での有識者などによる議論に加え、市民会議やワールドカフェを開催するなど、多くの市民の参加を得ながら、共につくり上げてきました。

先人たちが築き上げてきたこの魅力的なまちを受け継ぎ、そして、札幌の未来をつなぐ子どもたちに良好な形で引き継いでいくために、市民、企業など様々な活動主体がこのビジョンを共通の指針として広く認識し、それぞれが自分の役割を果たしていくことで、札幌・北海道の新しい未来を切り開いていくことができると確信しています。

最後に、計画の策定に当たり、ご尽力を賜りました審議会委員をはじめ、様々な形で関わっていただいた市民の皆様から心からお礼を申し上げます。

平成25年（2013年）2月

札幌市長

上田文雄

目次

第1章 はじめに	1	4 安全・安心 ～人に優しいまち～	14
第2章 社会経済情勢の変化と札幌	2	5 環境 ～次世代へ引き継ぐ～	16
1 札幌を取り巻く社会経済情勢の変化	2	6 文化 ～創造性を育む～	18
2 札幌・北海道の魅力と資源	5	7 都市空間	
第3章 私たちが目指す札幌市の将来	6	～魅力と活力のある都市の形成～	20
第4章 まちづくりの基本目標	7	第5章 ビジョンの推進に当たって	22
1 地域 ～つながりと支え合い～	8	1 基本理念と基本姿勢	22
2 経済 ～暮らしと雇用を支える～	10	2 戦略ビジョンの効果的推進	23
3 子ども・若者 ～健やかに育む～	12		

まちづくり戦略ビジョンの全体像

ビジョン編

第1章 はじめに

策定の背景や趣旨、戦略ビジョンの位置付け

第2章 社会経済情勢の変化と札幌

札幌市を取り巻く課題とそれを踏まえた今後の取組の方向性

第3章 私たちが目指す札幌市の将来

目指すべき都市像

北海道の未来を
創造し、世界が憧れるまち

互いに手を携え、
心豊かにつながる共生のまち

第4章 まちづくりの基本目標

地域

経済

子ども
若者

安全
安心

環境

文化

都市
空間

第5章 ビジョンの推進に当たって

基本理念

札幌の未来をつなぐ子どもたちのために

基本姿勢

- ◆市民が主役のまちづくり
- ◆まちの活力を高める人づくり
- ◆北海道と共に発展する札幌
- ◆限りある資源の有効活用と共創

戦略ビジョンの効果的推進

今後10年間で最も大きなパラダイムの転換が必要となるテーマを選択し、集中的に施策を展開

戦略編

選択された3つのテーマに沿った施策の方向性を設定

暮らし
コミュニティ

産業
活力

低炭素社会
エネルギー転換

策定の趣旨

札幌を取り巻く社会経済情勢の変化に対応します。

札幌市では、平成32年（2020年）を目標年次とする札幌市基本構想（平成10年（1998年）議決）と第4次札幌市長期総合計画（平成12年（2000年）策定）に基づき、計画的にまちづくりを進めてきました。

しかし、少子高齢化や人口減少、札幌・北海道経済の長期にわたる低迷、福島第一原子力発電所の事故をきっかけとしたエネルギー政策の見直しなど、札幌を取り巻く社会経済情勢が、計画策定時の想定を超えて、大きく変化しています。

こうした状況の中、私たちが、目指すべきまちの姿とまちづくりの方向性を共有し、共に取り組んでいくために、札幌市まちづくり戦略ビジョン（以下「戦略ビジョン」という。）を策定するものです。

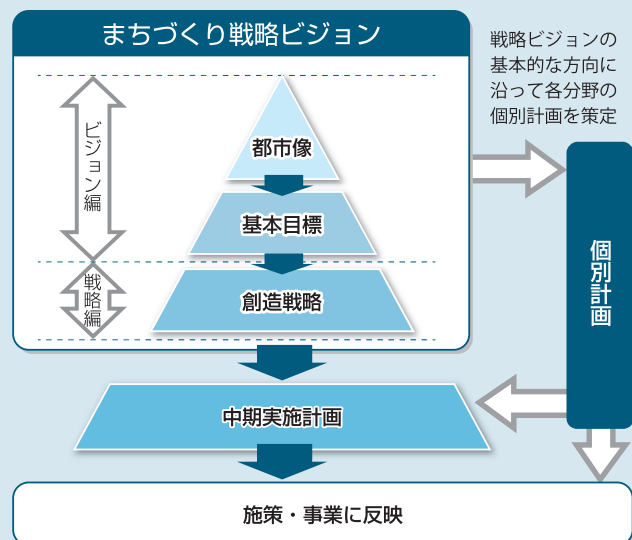
位置付け・期間

札幌市のまちづくりにおける最上位の計画です。

◆戦略ビジョンの位置付け

戦略ビジョンは、新たなまちづくりの基本的な指針となるものであり、札幌市のまちづくりの計画体系では、幅広い分野にわたる総合計画として最上位に位置付けられます。

それぞれの行政分野には、法令に基づくものや札幌市が独自に策定するものなど、様々な個別計画がありますが、これらは、いずれも戦略ビジョンの基本的な方向に沿って策定し、推進していきます。



◆計画期間と目標年次

平成25年度（2013年度）から平成34年度（2022年度）までの10年間を計画期間とし、平成35年（2023年）を目標年次と設定します。

特 色

「市民と共有できるビジョン」にします。

◆市民と共有できるビジョン

市民自治によるまちづくりを目指し、市民と共有するための「市民計画」として位置付けるとともに、広く市民の参加を得ながら共につくり上げることにより、「市民と共有できるビジョン」にすることを基本的な考え方としています。

◆ビジョン編と戦略編

戦略ビジョンは、私たちが一体となってまちづくりを進めるために、目指すべき将来のまちの姿を描いた「ビジョン編」と、主に行政が優先的・集中的に実施することを記載した「戦略編」で構成しています。

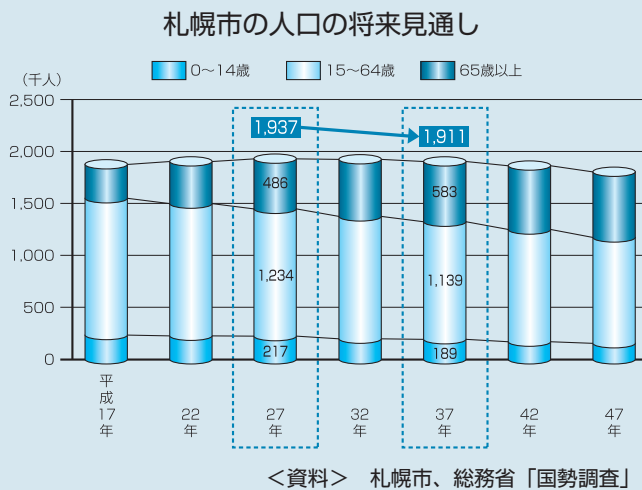
第2章

社会経済情勢の変化と札幌

これから迎える人口減少・超高齢社会は、私たちの暮らしに様々な影響を及ぼすことが予想されています。また、グローバル化の進展により、世界の経済動向が、地方の経済や雇用に与える影響をより大きなものとしています。加えて、福島第一原子力発電所の事故が、私たちのエネルギーに対する考え方を変えるきっかけとなり、暮らしにも大きな影響を与えています。今後のまちづくりでは、このような変化を的確に捉え、札幌の強みを生かしながら、目指すべき都市像の実現に向け、道筋を定めていくことが必要です。

1 札幌を取り巻く社会経済情勢の変化

人口の将来見通し 平成27年前後を境に札幌の人口は減少に転じることが予測されます。

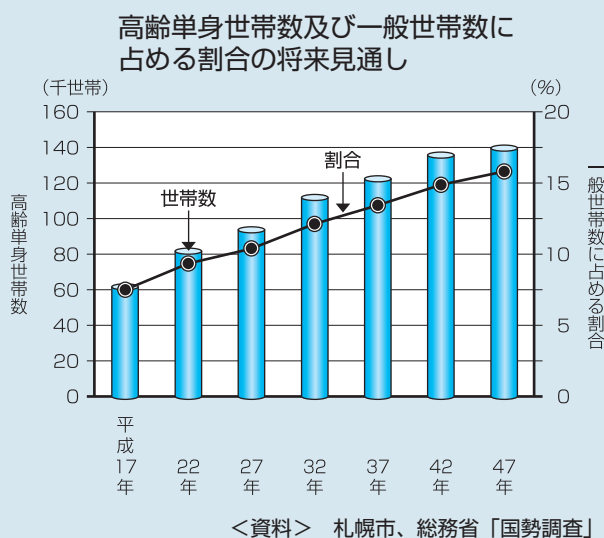


◆札幌市の人口は、これまで一貫して増加傾向にありましたが、平成27年(2015年)前後をピークに減少傾向に転じることが予測されています。また、札幌市の経済を主に支えている生産年齢人口¹は既に減少が始まっており、今後さらに減少する見込みです。

◆平均寿命の延びや出生率の低下により、少子高齢化が急速に進行し、平成37年(2025年)には、おおむね3人に1人が高齢者となる見込みです。

ポイント 人口減少を見据えたまちづくりが必要

超高齢社会の到来 高齢化が進む中、高齢単身世帯が更に増加していくことが予測されます。



◆人口減少が予測される中でも、高齢者は大幅に増加することが見込まれるとともに、支援や見守りが必要な要介護者や障がいのある方が増加傾向にあります。

◆高齢単身世帯数は、今後も増加傾向が続き、平成37年(2025年)にはおおむね8世帯に1世帯が高齢単身世帯となる見込みです。

ポイント 誰もが安心して住み続けられる地域の支え合いが重要

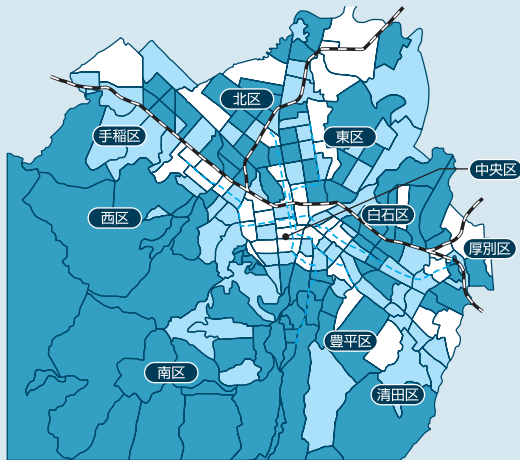
¹ [生産年齢人口] 15歳以上65歳未満の人口。

地域ごとの人口推移

人口の増減や年齢構成は地域によって大きく異なります。

札幌市の統計区別人口増加数(平成12年~22年)

□ 1,000人以上増加 □ 0人~999人増加 ■ 減少



注：「国勢調査」の結果による。

<資料> 札幌市

◆早くから開発された郊外の大規模な住宅団地では、人口減少が始まっている地域が既に多く見られるほか、高齢化の進行や空き家の増加といった問題が生じています。

◆一方で、マンションの立地が活発な地域や新しく開発された郊外の住宅地などでは、若い世代の流入が比較的多く、人口が増加するとともに、高齢化率が低い地域も見られます。

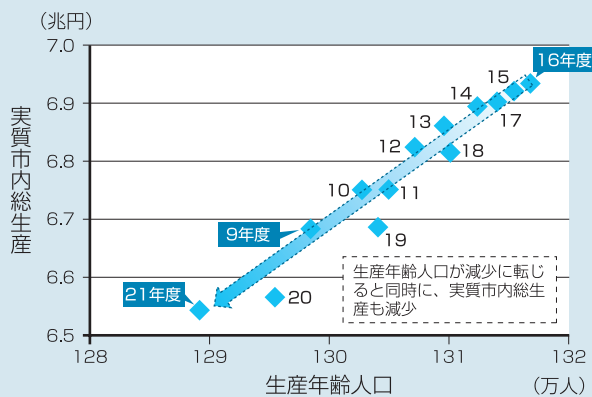
ポイント

地域の状況や特性に合わせたまちづくりを進めることが重要

経済規模の縮小

生産年齢人口の減少とともに、実質市内総生産も減少しています。

生産年齢人口と実質市内総生産(平成9年度~21年度)



注：グラフ内の数字は、各年度を表す。生産年齢人口は、各年10月1日現在の住民基本台帳人口による。

<資料> 札幌市

◆札幌市においては、生産年齢人口と実質市内総生産²に強い相関関係があり、生産年齢人口が減少に転じた平成17年度(2005年度)以降は、実質市内総生産も減少を続けています。

◆今後も、生産年齢人口の減少が予測され、また、道外へ転出する若者が多いという傾向もあることから、更なる経済規模の縮小が懸念されます。

ポイント

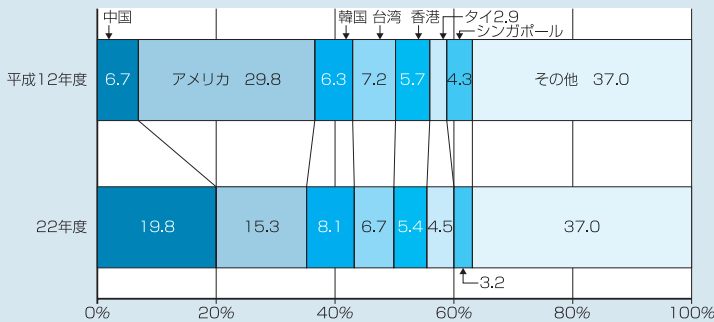
働く場の確保、産業の高付加価値化による市民所得の向上が重要

²【実質市内総生産】市内総生産とは、一定期間内に新しく生み出された物やサービスの金額の合計。この市内総生産から物価変動による影響を取り除いたものを実質市内総生産という。

グローバル化の進展

経済成長、人口増加が著しいアジア諸国との関係が強くなっています。

日本の輸出額における国・地域別割合
(平成12年度、22年度)



<資料> 財務省「貿易統計」

◆中国、インド、インドネシアを始めとしたアジア諸国では、人口の増加や経済成長が続いており、日本の輸出全体に占めるアジア諸国の割合が上昇しています。

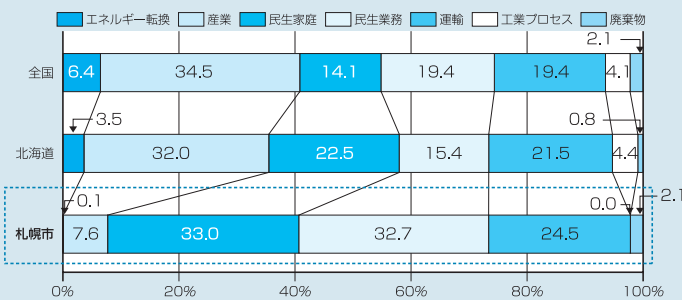
◆札幌市を訪れる外国人観光客は近年増加しています。外国人宿泊者数は、平成13年度（2001年度）から平成22年度（2010年度）までの10年間で約3倍となっており、特にアジア諸国からの宿泊者が9割近くを占めています。

ポイント 成長著しいアジアの活力を最大限に取り込むことが必要

環境・エネルギー問題

原子力発電に依存しない社会への移行が望まれています。

部門別二酸化炭素排出量割合(平成20年度)



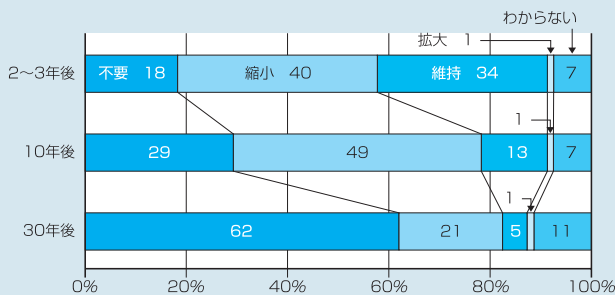
<資料> 札幌市、環境省、北海道

◆札幌市における二酸化炭素の排出量を部門別の割合で見ると、民生家庭部門（一般家庭からのもの）が33.0%、民生業務部門（事務所やホテルといったサービス業などからのもの）が32.7%、運輸部門（自動車などからのもの）が24.5%と、いずれも全国や北海道と比べて割合が高くなっており、特に民生家庭部門では全国の2倍以上となっていることが特徴です。

◆福島第一原子力発電所の事故は、日本のエネルギー政策の在り方を根底から見直すきっかけとなりました。「平成23年度（2011年度）エネルギーに関する市民意識調査」においては、今後のエネルギーの在り方について、脱原発依存と再生可能エネルギー³の拡大が望まれています。

◆札幌市議会においても、平成23年（2011年）6月に「原発に頼らないエネルギー政策への転換を求める意見書」を全会一致で可決するなど、そうした気運が高まっています。

原子力発電の今後の在り方



<資料> 札幌市「平成23年度エネルギーに関する市民意識調査」

ポイント 低炭素社会と脱原発依存社会の実現に向け、資源の有効活用や市民一人一人の取組が重要

³【再生可能エネルギー】太陽光、地熱、風力など、エネルギー源として永続的に利用することができるものの総称。

札幌を取り巻く変化を踏まえ、その中で生かしていくべき札幌・北海道の魅力や資源を示します。

札幌の魅力と強み

豊かな自然と高度な都市機能が共存した札幌は市民の愛着が高いまちとなっています。

札幌の魅力と強み

- ◆豊かな自然環境
- ◆少ない自然災害
- ◆都市機能の集積
- ◆札幌らしい文化、ライフスタイル
- ◆寛容かつ進取的な札幌人の気質

◆「平成23年度（2011年度）市政世論調査」の結果によると、市民の「札幌の街に対する愛着度」は97.2%と極めて高く、市民の札幌に対する愛着度の高さがうかがえます。

◆都市のブランドイメージについても、民間調査機関による魅力度ランキングで1位になるなど、全国的に高い評価を得ています。

ポイント

札幌が持つ強みを生かし、札幌の暮らしやすさや、魅力を高める取組が必要

北海道の資源

食・観光・エネルギーなどの豊かな資源と新たな広域ネットワークの可能性がります。

活用すべき北海道の資源

- ◆豊かな食資源
- ◆人々を引き付ける豊かな自然環境
- ◆豊富に賦存する再生可能エネルギー
- ◆北海道新幹線の札幌延伸

◆札幌の魅力は、豊かな自然や食など、その多くが北海道の魅力そのものであり、札幌と北海道の経済は密接不可分です。

ポイント

北海道が持つ豊かな資源をまちづくりに生かすことが重要



私たちは、都市の活力と生活の質を高めながら先人が知恵と努力で築き上げてきたこのまちを、次世代に良好な形で引き継いでいかなければなりません。

そのためには、市民、企業、行政などが、それぞれの立場でまちづくりへの役割を果たしていくことが重要であることから、私たちが、今後のまちづくりに当たって共有できる将来のまちの姿を、目指すべき都市像として以下に掲げます。

■目指すべき都市像

北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち

札幌・北海道の様々な魅力資源を、一人一人の創造性によって、より磨き上げながら、それを国内及び世界に発信することで、世界との結び付きを強め、投資や人材を呼び込むなど、世界が憧れ、活力と躍動感にあふれる、心ときめくまちを実現します。

新たな価値を 生み出す創造と チャレンジ

札幌・北海道が持つ豊かな自然や文化と、先人たちがこれまで育んできた北方圏ならではの知識や技術などの貴重な資産に、今後、創造性から湧き出るアイデアによって更に磨きをかけるとともに、若者を始めとする様々な人々が、先駆的な取組にチャレンジできる環境を整えることによって、絶えず新たな価値が生み出されていくまちを目指します。

札幌型 ライフスタイルの追求

芸術の薫り漂う、札幌ならではの個性と楽しさにあふれる都市文化と、うるおいのある豊かな自然環境の中で、多様な文化や新しいモノを取り入れ、新しいコトに挑戦していくなど、創造的に暮らす、世界が憧れる札幌型のライフスタイルを追求し、その魅力を発信します。

世界に誇る 環境首都の実現

先人たちが築き上げた北方圏ならではの都市機能と、北海道の豊富な自然エネルギーを生かしながら、環境負荷の少ない暮らしを追求するなど、低炭素社会と脱原発依存社会を目指した持続可能なまちづくりを進め、世界に誇れる先進的な環境首都を実現します。

互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち

誰もが生きがいと誇りを持ちながら、互いにつながり、支え合うことで、生きる喜びと幸せを感じられる、心豊かで笑顔になれるまちを実現します。

つながりと支え合い のまちづくり

誰もがその能力を十分に発揮し、自らのできる範囲で社会的な役割を果たすとともに、互いの個性や多様性を認め合う寛容さと相互の信頼感の下でつながる共生のまちづくりを進めます。

道内市町村との 連携と魅力創造

「北海道の発展なくして、札幌の発展はない」との考え方の下、私たちは北海道全体の発展を常に意識し、道内の魅力資源と札幌の都市機能を融合させながら、他の都市や地域と手を携え、北海道の魅力を更に高めます。

世界の中での 都市の共生

国際平和や人権擁護はもとより、環境・エネルギーなどの地球規模の課題への取組が求められている中、世界の都市の一員としての責任と役割を果たすことにより、世界と共生していくことを目指します。

第4章

まちづくりの基本目標

「目指すべき都市像」を実現するためには、私たちが具体的な目標を共有し、その目標に向かって連携しながら課題に取り組んでいく必要があります。そこで、まちづくりの分野を7つに分け、その分野ごとにまちづくりに関する「基本目標」を設定します。この中では、私たちが、今後のまちづくりの方向性を具体的にイメージできるようにするため、基本目標ごとに「将来のまちの姿」を示すとともに、市民や企業などが、それぞれの立場で取り組むべきことを明記します。

なお、まちづくりの実践に当たっては、市民、企業、行政などの様々な主体が参画し、相互に補完し合いながら責任を持って進めることが重要です。

7つの分野	重要な視点	24の基本目標
地域	地域での支え合いとつながりづくり	<ul style="list-style-type: none"> ① 共生と交流により人と人がつながるまちにします ② 様々な担い手が地域のまちづくり活動に参加するまちにします ③ 多様な地域課題を解決できるまちにします
経済	暮らしと雇用を支える経済の発展	<ul style="list-style-type: none"> ④ 強みを生かした産業が経済をけん引するまちにします ⑤ 様々な連携により産業が高度化するまちにします ⑥ 市民の雇用が安定的に確保されるまちにします ⑦ 強みを生かし世界とつながるまちにします ⑧ 地域コミュニティを支える産業を大切にするまちにします
子ども・若者	将来を担う子ども・若者の健やかな育み	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 安心して子どもを生み育てられるまちにします ⑩ 将来を担う子どもの成長と自立を支えるまちにします ⑪ 若者が社会的に自立し活躍できるまちにします
安全・安心	安心して暮らせる「人に優しい」まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ⑫ 誰もが健康的で安心して暮らせるまちにします ⑬ 地域防災力が高く災害に強いまちにします ⑭ 安全な日常生活が送れるまちにします
環境	次世代へつなげる持続可能なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ⑮ 豊かな自然と共生するまちにします ⑯ 資源やエネルギーを有効活用するまちにします ⑰ 市民が環境について学び行動するまちにします
文化	文化芸術・スポーツによる創造性の育み	<ul style="list-style-type: none"> ⑱ 創造的な活動により活力あふれるまちにします ⑲ 文化芸術やスポーツの魅力によりにぎわいが生まれるまちにします ⑳ 市民一人一人が魅力を再認識し発信するまちにします
都市空間	魅力と活力を持続的に高める集約型のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ㉑ 公共交通を中心とした集約型のまちにします ㉒ 札幌の顔となる魅力と活力あふれる都心にします ㉓ 都市の価値を高めるみどりを生かしたまちにします ㉔ 都市基盤が適切に維持・保全されるまちにします

1 地域 ～つながりと支え合い～

現状と課題

市民の意識や生活様式の変化、価値観の多様化などにより、地域⁴における課題が複雑・多様化しており、これまでの取組だけでは解決が難しくなっています。

今後は、住民同士の支え合いや助け合いが地域課題の解決に重要な役割を担うことが期待されており、そのためには地域のつながりを深め、町内会などの地域コミュニティを活性化していく必要があります。

また、ボランティアやNPO、企業などによる社会貢献活動も広がってきており、これらの多様な活動の担い手の連携による地域課題の解決が求められます。

現状と課題を踏まえた重要な視点

— 地域での支え合いとつながりづくり —

地域での支え合いを実現するためには、世代や性別、国籍、文化の違い、障がいの有無などにかかわらず、地域の人々がお互いを認め合いながら、社会参加や交流を通じてつながりを深めていくことが重要となります。また、市民一人一人や、町内会、NPO、企業などが、地域課題を自らの問題と考えて主体的に活動し、お互いに連携しながらネットワークを構築していく必要があります。

このような取組により、地域自らが様々な地域課題を解決していける力を向上させるとともに、住民同士が支え合いながら暮らしていけるまちづくりを進める必要があります。

基本目標の設定

基本目標

- 1 共生と交流により人と人がつながるまちにします
- 2 様々な担い手が地域のまちづくり活動に参加するまちにします
- 3 多様な地域課題を解決できるまちにします

⁴ 【地域】 この場合の地域は、行政区より小さい、生活に身近な空間的広がりを指す。

基本目標

1 共生と交流により人と人がつながるまちにします

将来の まちの姿

- ▶地域では、住民同士の支え合いにより誰もが自立した生活を送るとともに、それぞれが持つ能力を発揮して、積極的に社会参加しています。
- ▶地域を越えた重層的で多様なまちづくりのネットワークが広がっています。
- ▶お互いを尊重し、責任を分かち合う男女共同参画社会が実現されています。
- ▶多文化共生⁵の意識が醸成され、国や文化の違いにかかわらず、お互いを認め合い生活しています。
- ▶子どもを始めとした住民が集える居場所や交流の場が身近にあり、地域コミュニティが活性化しています。

私たちが 取り組むこと

市 民

- 住民同士の交流や支え合い活動への積極的な参加

町内会・NPO・企業等

- 市民の居場所づくり

行 政

- 多世代交流などの推進

など

基本目標

2 様々な担い手が地域のまちづくり活動に参加するまちにします

将来の まちの姿

- ▶子どもから高齢者まで、全ての市民が、様々な学びの機会を活用しながら、それぞれが持つ能力や経験を生かし、自分に合った形で主体的に地域のまちづくり活動に参加し、活躍しています。
- ▶地域のまちづくり活動の中核を担っている町内会への加入が進み、地域コミュニティが活性化しています。
- ▶町内会を始め、NPO、商店街、企業など、多様な活動主体が様々な地域のまちづくり活動に取り組んでいます。

私たちが 取り組むこと

市 民

- 町内会活動を始めた地域のまちづくり活動への積極的な参加

町内会・NPO等

- 地域のまちづくり活動の推進

企 業

- 社会貢献活動などを通じた地域のまちづくり活動への積極的な参加

行 政

- 多様な活動主体が地域のまちづくり活動に取り組める環境づくり

など

基本目標

3 多様な地域課題を解決できるまちにします

将来の まちの姿

- ▶複雑・多様化する地域課題が、住民や地域の団体、企業などによる自主的な活動や行政による支援を通じて解決されています。
- ▶地域のまちづくり活動を実践する様々な主体が、お互いに連携し、相乗効果を生みながら活発に活動しています。
- ▶ソーシャルビジネス⁶やコミュニティビジネス⁷など、ビジネスの手法を活用して地域課題を解決する活動も活発に行われています。

私たちが 取り組むこと

市 民

- 地域のまちづくり活動への積極的な参加

町 内 会

- 地域課題の解決に向けた多様な活動主体との積極的な連携

企業・NPO等

- ビジネスの手法を活用した地域課題の解決に向けた取組の推進

行 政

- 区役所、まちづくりセンターにおける地域課題の的確な把握、迅速な支援体制づくり

など

⁵ 【多文化共生】 国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

⁶ 【ソーシャルビジネス】 環境、医療、福祉など地域の様々な社会的課題を、ビジネスの手法を用いて解決しようとする事業。

⁷ 【コミュニティビジネス】 地域の課題を住民、NPO、企業などが連携して、ビジネスの手法を用いて解決しようとする事業。

2 経済 ～暮らしと雇用を支える～

現状と課題

産業の活性化は、都市の活力を高めるとともに、安定的な雇用を創出し、社会の持続可能な発展を支える重要な役割を担っており、市民の安心な暮らしを実現する上で欠かすことのできないものです。

このため、人口減少や少子高齢化の進行、グローバル化の進展など、札幌を取り巻く社会経済情勢の変化に対応できる足腰の強い経済基盤を確立させることが必要となっています。

現状と課題を踏まえた重要な視点

— 暮らしと雇用を支える経済の発展 —

経済の発展と安定的な雇用の確保のためには、札幌の経済をけん引していく産業分野を明確に定め、積極的な振興を図ることが重要です。また、創造性や地域特性を生かした付加価値の創出やグローバル化への対応などにより、産業全体の活性化を図り、競争力を高めることが必要です。さらに、地域コミュニティを支える産業を育てていくことが求められています。

基本目標の設定

基本目標

- 4 強みを生かした産業が経済をけん引するまちにします
- 5 様々な連携により産業が高度化するまちにします
- 6 市民の雇用が安定的に確保されるまちにします
- 7 強みを生かし世界とつながるまちにします
- 8 地域コミュニティを支える産業を大切にするまちにします

基本目標

4 強みを生かした産業が経済をけん引するまちにします

将来の まちの姿

- ▶食、観光、環境、健康・福祉の4つの産業分野を中心に足腰の強い経済基盤が確立しています。
- ▶従来の製造業に、バイオ・IT・コンテンツ産業を加えた「札幌型ものづくり産業」が根付き、他分野との連携により新たなビジネスが生まれています。
- ▶中小企業の活動が活性化し、裾野の広い経済基盤が確立しています。

私たちが 取り組むこと

市 民

- 地産地消の実践

企業・大学・研究機関等

- 他産業との連携による付加価値の向上

行 政

- 食、観光、環境、健康・福祉の4つの産業分野の重点的な振興 など

基本目標

5 様々な連携により産業が高度化するまちにします

将来の まちの姿

- ▶産・学・官の連携などにより、創造性を発揮した様々なイノベーションが起きています。
- ▶道外から先端技術分野の企業などが進出し、北海道全体の産業の競争力が高まっています。
- ▶広域的な交通ネットワークにより、道内外とのヒトやモノの流れが活発化しています。

私たちが 取り組むこと

企 業 等

- 新事業や新分野への事業展開

行 政

- 新たな技術や製品の開発に向けた産・学・官連携の促進

など

基本目標

6 市民の雇用が安定的に確保されるまちにします

将来の まちの姿

- ▶中小企業の経営基盤の強化などにより、市民の雇用が安定的に確保されています。
- ▶誰もがそれぞれの能力を生かして働くことで、自立して暮らしています。
- ▶ワーク・ライフ・バランスの考え方が浸透し、実践され、社会全体が活性化しています。

私たちが 取り組むこと

市 民

- 職業能力の向上や自己啓発

企 業 等

- 市民の能力を生かす積極的な雇用

行 政

- 雇用のミスマッチ解消や起業への支援

など

基本目標

7 強みを生かし世界とつながるまちにします

将来の まちの姿

- ▶札幌・北海道の強みを生かし、海外の需要を取り込むことにより、多くの外貨を獲得しています。
- ▶外国企業の進出により、新たな雇用や地場企業への波及効果が生まれています。
- ▶企業では、国際的な視野を持った人材が活躍するとともに、海外との様々な都市間交流や互恵的な国際協力が、新たなビジネスへの架け橋になっています。

私たちが 取り組むこと

市 民

- 外国人観光客などへのおもてなしの実践

企 業 等

- 積極的な海外事業の展開

行 政

- 観光客の受入環境の整備

など

基本目標

8 地域コミュニティを支える産業を大切にするまちにします

将来の まちの姿

- ▶身近な商店街が活性化し、地域のにぎわいを生み出しています。
- ▶ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスが活発化し、地域コミュニティを支える産業としての役割を果たしています。

私たちが 取り組むこと

市 民

- 地域の商店街活動への理解と協力、店舗の利用

商店街・企業・NPO等

- 地域課題の解決に向けた多様な活動主体との積極的な連携

行 政

- ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスの振興

など

3 子ども・若者 ～健やかに育む～

現状と課題

全国的に少子化が進む中、札幌市の合計特殊出生率⁸は大都市の中でも極めて低い水準で推移しており、社会の活力に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。

少子化の背景としては、子育て家庭の孤立化などによる子育てへの不安や負担感が増大していることが要因の一つとして考えられます。また、子どもや若者の成長過程では、いじめや虐待、不登校、引きこもりなどといった問題も生じています。

こうしたことから、社会全体で協力して子どもの成長を支え、誰もが子どもを生き育てやすい環境を整えていくとともに、困難を有する若者の自立や社会参加を支援していく必要があります。

現状と課題を踏まえた重要な視点

— 将来を担う子ども・若者の健やかな育み —

子どもを生き育てやすいまちづくりを進めるためには、子どもの権利の尊重の下、社会全体で子育て・子育て支援⁹を推進し、子育てへの不安や負担の軽減を図るとともに、子どもの成長過程での様々な問題に対応していく必要があります。

特に、ふるさと札幌に根差した自立した子どもを育てていくためには、全ての子どもに対して、生きる力を培い、豊かな創造力を育む充実した教育を推進することや、社会性を育む実践的な学びの機会を充実させていくことが重要です。

さらに、若者全ての社会的自立を実現するとともに、主体的に地域社会に参画する取組なども進め、将来の札幌を担う人材を育成していく必要があります。

基本目標の設定

基本目標

- 9 安心して子どもを生き育てられるまちにします
- 10 将来を担う子どもの成長と自立を支えるまちにします
- 11 若者が社会的に自立し活躍できるまちにします

⁸ 【合計特殊出生率】 15歳～49歳の女性の年齢別出生率の合計。1人の女性が平均して一生の間に生む子どもの数に相当する。

⁹ 【子育て支援】 子どもが将来自立した社会性のある大人へと自ら成長していく過程を支援すること。

基本目標

9 安心して子どもを産み育てられるまちにします

将来の まちの姿

- ▶地域の団体や企業、NPO、行政による様々な支援を通じて、安心して子育てができる環境が整っています。
- ▶ワーク・ライフ・バランスの考え方が社会全体に浸透し、男性も女性も仕事と生活の調和を図り、働きながら子育てができる環境が整っています。
- ▶多様なニーズに対応した様々な保育サービスが提供され、子どもが小学校に入学した後も、放課後児童対策¹⁰などの支援体制が整っています。

私たちが 取り組むこと

- | 市 民 | 町内会・NPO等 | 企 業 等 | 行 政 |
|---------------------|---------------------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| ●様々な子育て支援活動への積極的な参加 | ●子育てサロン ¹¹ の開催など子育て支援活動の推進 | ●ワーク・ライフ・バランスの実践に向けた職場環境づくり | ●子育て家庭の孤立防止に向けた相談・支援体制の充実 など |

基本目標

10 将来を担う子どもの成長と自立を支える まちにします

将来の まちの姿

- ▶子どもたちは、一人一人の個性や特性を伸ばす充実した教育を受け、伸び伸びと遊ぶことを通じて、生きる力を高め、豊かな創造力を身に付けながら成長しています。
- ▶家庭・地域・学校の連携による多様な体験活動などを通じて、子どもたちは自立した社会性のある大人へと成長しています。
- ▶いじめや不登校、児童虐待などを未然に防ぐとともに、迅速かつ適切に対応する環境が整っています。
- ▶配慮や支援を要する子どもは、充実した相談・支援体制などの下、個別の状況に応じて適切な支援を受けることができます。

私たちが 取り組むこと

- | 市 民 | 町内会・NPO等 | 企 業 等 | 行 政 |
|---------------------|-------------------|---------------|---|
| ●様々な子育て支援活動への積極的な参加 | ●地域における体験活動などへの協力 | ●ボランティア活動への支援 | ●いじめ、不登校、児童虐待などの相談・支援体制の充実及び家庭や地域、関係機関との連携強化 など |

基本目標

11 若者が社会的に自立し活躍できるまちにします

将来の まちの姿

- ▶全ての若者が社会的に自立できるよう、教育機関や企業、地域、行政などの連携・協力の下、充実した相談・支援体制が整っています。
- ▶地域や企業等と大学などの教育機関が連携し、学生に実践的な学びの場が提供されています。
- ▶若者の安定的な雇用が確保され、起業を支援する制度も充実するなど、働きやすい環境が整っています。
- ▶多くの若者が、様々なまちづくり活動への主体的な参加や新たな取組への先駆的なチャレンジを通じて、地域課題の解決やまちの活力の向上に向けて力を発揮しています。

私たちが 取り組むこと

- | 市 民 | 町内会・NPO等 | 企 業 等 | 行 政 |
|-------------------|-------------------|-------------|--------------------|
| ●大学と地域が連携した取組への参加 | ●地域における体験活動などへの協力 | ●職業体験などへの協力 | ●若者の地域社会への参画の促進 など |

¹⁰ 【放課後児童対策】 昼間保護者のいない家庭の児童の健全育成・指導を目的とする児童クラブなどにおける活動のこと。

¹¹ 【子育てサロン】 子育て中の親子が気軽に集い、自由に交流や情報交換ができる場。

4 安全・安心 ～人に優しいまち～

現状と課題

高齢化の急速な進行によって、高齢単身世帯や高齢夫婦世帯が増え、支援や介護を必要とする市民が増加しています。また、ニーズが複雑・多様化し、ライフステージに応じた一貫した支援も求められていることから、必要なサービスが適切に受けられる環境づくりのほか、住民同士の支え合いや助け合いも求められています。また、日常の防犯や交通安全など、安全な暮らしの確保も求められています。

さらに、東日本大震災の教訓から、大規模な災害が発生した際には、市民・企業・行政の役割分担による相互連携の取組の重要性が改めて認識されており、それぞれが自らの役割を意識しながら災害に備えていくことが必要です。

現状と課題を踏まえた重要な視点

— 安心して暮らせる「人に優しい」まちづくり —

地域における住民同士の見守り・支え合いや、防犯活動などを通じた日常の安全の確保、市民の主体的な健康づくりなどを通じて、高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりを進めていく必要があります。また、多様化するニーズに対応した「きれめ」や「すきま」のないサービスや、安心できる医療体制の充実などを図っていくことが重要です。

そして、万が一の災害に備え、自分の身は自分で守る「自助」、地域で互いが助け合う「共助」、行政による消防・救助活動などの「公助」の役割をそれぞれが認識し、主体的に防災活動に取り組む「防災協働社会」を構築していく必要があります。

基本目標の設定

基本目標

- 12 誰もが健康的で安心して暮らせるまちにします
- 13 地域防災力が高く災害に強いまちにします
- 14 安全な日常生活が送れるまちにします

基本目標

12 誰もが健康的で安心して暮らせるまちにします

将来の まちの姿

- ▶地域での見守り活動や、相談支援体制の充実により、誰もが安心して暮らしています。
- ▶在宅医療や身近なかかりつけ医¹²の普及促進などを通じて、地域と医療の結び付きが強まるとともに、充実した医療相談体制や救急医療体制により、市民の安心を支えています。
- ▶高齢者や障がいのある方が安心して生活できるよう、適切なサービスが提供されているとともに、様々な世帯のニーズに合った住まいが安定的に供給されています。
- ▶市民の主体的な健康づくり活動が活発に行われ、高齢になっても健やかに暮らしています。
- ▶食の安全が守られ、誰もが健やかで豊かな食生活を送っています。

私たちが 取り組むこと

市 民

- 地域福祉活動などへの積極的な参加

町内会・NPO等

- 地域福祉活動の推進

企 業 等

- ニーズに即した保健福祉サービスの提供

行 政

- 支援を必要とする市民への相談・支援体制強化 など

基本目標

13 地域防災力が強く災害に強いまちにします

将来の まちの姿

- ▶災害や火災の発生時に、市民一人一人が主体的に行動できる準備・体制が整っており、地域の防火・防災力が高まっています。
- ▶都市全体の耐震化などが進んでおり、自然災害による被害を最小化させる取組が進んでいます。
- ▶災害時に一人で避難することが難しい市民も、円滑に避難できる細かな配慮がなされています。
- ▶防災関係機関や企業、道内他市町村などの連携を通じて、大規模災害にも対応可能な防災力が確立しています。

私たちが 取り組むこと

市 民

- 自宅の防災対策・家庭内備蓄の推進

町内会・企業等

- 防災訓練などの自主防災活動の推進

行 政

- 公共施設、上下水道、道路などの耐震化の推進 など

基本目標

14 安全な日常生活が送れるまちにします

将来の まちの姿

- ▶防犯の取組など、市民の安全な暮らしを守る環境が整っています。
- ▶交通事故の少ない安全で安心な交通環境が実現しています。
- ▶大気汚染などの都市生活型公害について、適切な対策や市民への情報提供などを通じ、健康で安心な暮らしが守られています。
- ▶多くの人が集まる場では、バリアフリー化¹³やユニバーサルデザイン¹⁴の導入により、誰もが安全で快適に移動できる空間が整備されています。
- ▶冬の市民生活ルール¹⁴の共有や、効果的で効率的な除排雪などにより、安全な冬道が確保され、雪と共存した豊かな暮らしが実現しています。

私たちが 取り組むこと

市 民

- 地域防犯活動や交通安全運動への積極的な参加

町内会・企業等

- 地域防犯活動や交通安全運動の推進

行 政

- 公共施設のバリアフリー化などの推進 など

¹² 【かかりつけ医】 日頃から患者の体質、病歴や健康状態を把握し、診療のほかに健康管理上の助言などもしてくれる身近な医師のこと。

¹³ 【バリアフリー化】 高齢者や障がい者などが、社会生活をしていく上で障壁となるものを除去すること。道路、建物、交通手段など物理的なものだけでなく、社会的、制度的、心理的なものを含めた全ての障壁を無くすことを意味している。

¹⁴ 【ユニバーサルデザイン】 高齢者や障がい者のための特別な仕様を作るのではなく、最初から多くの人の多様なニーズを反映して作られた製品、建物、環境のデザイン。

5 環境 ～次世代へ引き継ぐ～

現状と課題

地球温暖化対策や福島第一原子力発電所の事故をきっかけとしたエネルギー政策の見直しなど、近年の環境問題は複雑・多様化しており、その対応に当たっては、自然環境の保全やエネルギー利用の見直し、環境負荷の少ないまちづくりなど多角的な取組が求められています。

また、札幌の財産である豊かなみどりは、その総量が減少傾向にあるため、市民・企業・地域・行政の連携・協力により、今あるみどりを守るとともに、新たに創出していくことが求められています。

現状と課題を踏まえた重要な視点

— 次世代へつなげる持続可能なまちづくり —

複雑・多様化する環境問題に対応するため、市民・企業・地域・行政が一丸となって、みどりの保全・創出やごみの減量・リサイクルなど、環境の保全・創造に関する取組を引き続き進める必要があります。

また、再生可能エネルギーの活用などに関する研究・開発・普及やエネルギー利用の在り方に関する市民意識の醸成を図ることにより、社会全体でエネルギー利用の在り方を考えながら、低炭素社会と脱原発依存社会を目指していく必要があります。

そして、市民が環境の保全・創造について学び、実践する環境づくりを進めることにより、札幌が持つ四季折々の美しい自然と豊かな文化を次世代に引き継ぎ、より良い環境を創造する持続可能な都市「環境首都・札幌」を推進していくことが重要です。

基本目標の設定

基本目標

- 15 豊かな自然と共生するまちにします
- 16 資源やエネルギーを有効活用するまちにします
- 17 市民が環境について学び行動するまちにします

基本目標

15 豊かな自然と共生するまちにします

将来の まちの姿

- ▶ 森林や農地、公園などに加え、民有地でもみどりの保全・創出が進み、みどり豊かで住み心地の良いまちが形成されています。
- ▶ 水については、水質や水量だけでなく、生物と生息環境、水辺とのふれあいといった水環境全体が守られています。
- ▶ 地球環境への負荷を低減する取組によって、生物多様性¹⁵が保全されています。

私たちが 取り組むこと

- | 市 民 | 町内会・NPO等 | 企 業 等 | 行 政 |
|--------------------------------|---|-------------------|----------------|
| ●みどりを保全・創出するためのまちづくり活動への主体的な参加 | ●みどりを保全・創出するためのまちづくり活動の実施や情報発信、市民などへの助言 | ●所有地やその周辺などの緑化の推進 | ●公有地のみどりの保全・創出 |
- など

基本目標

16 資源やエネルギーを有効活用するまちにします

将来の まちの姿

- ▶ ごみの減量・リサイクル・再利用が積極的に行われる、資源循環型の社会となっています。
- ▶ 省エネルギー技術や次世代エネルギーシステムについては、情報・通信技術との連携などの研究・開発が進められることにより、その利用が進んでいます。
- ▶ エネルギー消費量の多い都心部を中心に、効率的なエネルギー利用が図られています。
- ▶ 積雪寒冷地であり、家庭などの二酸化炭素の排出量が多いことに対応した、エネルギー消費を抑えた市民のライフスタイルが定着しています。
- ▶ 環境に配慮した自動車が普及し、公共交通機関が積極的に利用されることにより、移動にかかるエネルギー消費を抑えた社会となっています。

私たちが 取り組むこと

- | 市 民 | 町内会・NPO等 | 企 業 等 | 行 政 |
|------------------------|------------------------------|-----------------------------|------------------------|
| ●エネルギー消費を抑えたライフスタイルの実践 | ●集団資源回収の実施など、ごみ減量・リサイクル活動の推進 | ●省エネ設備などの積極的な導入や環境負荷の低減への配慮 | ●ごみの減量・リサイクル・再利用の取組の促進 |
- など

基本目標

17 市民が環境について学び行動するまちにします

将来の まちの姿

- ▶ 市民や企業などは、環境の保全・創造のために自ら考え、行動しています。
- ▶ 子どもたちは、自然とのふれあいや日常生活に根差した学習活動を通じて、広く環境問題に関心を持ち、身近なことから取り組んでいます。
- ▶ 市民や企業などは、札幌の美しい自然・環境を守り育て、美しい景観を維持・創出する意識を持ちながら、持続可能なまちづくりに主体的に取り組んでいます。

私たちが 取り組むこと

- | 市 民 | 町内会・NPO等 | 企 業 等 | 行 政 |
|---------------------|----------------------------|-------------------------------------|-------------------------------|
| ●環境の保全・創造活動への積極的な参加 | ●環境の保全・創造活動の実践を通じた市民への理解促進 | ●町内会、NPO、行政などと積極的に連携した環境の保全・創造活動の実践 | ●学校・環境関連施設間の連携強化などを通じた環境教育の充実 |
- など

¹⁵ 【生物多様性】 地球上の多種多様な生き物全てがそれぞれ支え合い、つながり合いながら生きている状態を表した概念であり、生態系・種・遺伝子の3つの多様性からなるもの。

6 文化 ～創造性を育む～

現状と課題

社会経済情勢が大きく変化する中で、札幌・北海道の資源を有効に活用し、まちの魅力を効果的に伝えることにより、北海道全体の地域振興や産業振興などに結び付け、市民生活を豊かなものとしていく取組が求められています。

札幌には、世界的に評価の高い文化芸術・スポーツに関する施設やイベントが多数あり、市民の創造性を育む基盤が整っています。

また、文化芸術・スポーツは、人々に感動を与え、その感動は、人々を刺激し、新たな行動を起こすきっかけをつくっています。そして、その行動を新たなコト・モノを生み出す創造的な活動へとつなげていくことが求められています。

現状と課題を踏まえた重要な視点

— 文化芸術・スポーツによる創造性の育み —

札幌には市民が身近に文化芸術やスポーツに親しめる環境が整っています。文化芸術やスポーツを通じて育まれる創造性を地域の活性化や産業の発展に結び付け、まちの活力を維持し、向上させていくことが重要です。

また、年間6mもの雪が降る特徴的な風土や歴史がつくり出してきた独自の文化やライフスタイルに代表される札幌の魅力を市民一人一人が再認識し、誇りを持って発信していく必要があります。

基本目標の設定

基本目標

- 18 創造的な活動により活力あふれるまちにします
- 19 文化芸術やスポーツの魅力によりにぎわいが生まれるまちにします
- 20 市民一人一人が魅力を再認識し発信するまちにします

基本目標

18 創造的な活動により活力あふれるまちにします

将来の まちの姿

- ▶文化芸術やスポーツが、市民に感動や刺激を与え、市民の感性や創造性を育むことで、生活を豊かなものにしていきます。
- ▶子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も、見るだけではなく、自ら文化芸術やスポーツを楽しむことで、充実した生活を送っています。
- ▶文化芸術やスポーツからつくり出された人と人との交流がまちづくりに発展し、まちの活性化へとつながっています。

私たちが 取り組むこと

市民

- 文化芸術の鑑賞及び創作・表現活動への積極的な参加を通じた交流

企業等

- 市民や地域の文化芸術やスポーツ活動への積極的な支援・協力

行政

- 文化芸術やスポーツを活用したまちづくり及び交流の促進

など

基本目標

19 文化芸術やスポーツの魅力によりにぎわいが 生まれるまちにします

将来の まちの姿

- ▶多くの人が集まる文化芸術やスポーツが、札幌の魅力的な資源として、観光振興や国際交流などの様々な分野で生かされています。
- ▶文化芸術やスポーツが、食や観光など様々な産業分野と結び付くことで新たな付加価値を生み出し、まちににぎわいと活力があふれています。

私たちが 取り組むこと

市民・企業等

- 各産業分野における文化芸術やスポーツの積極的な活用

行政

- 集客力のある文化芸術やスポーツの振興と戦略的な活用

など

基本目標

20 市民一人一人が魅力を再認識し発信する まちにします

将来の まちの姿

- ▶雄大な北海道の中にあって、四季折々の豊かな自然と快適な都市機能を備えている札幌は、そこに暮らす人、そこを訪れる人を刺激し、その創造性を育んでいます。
- ▶独自の冬の文化を形成しており、厳しい冬の生活環境の中でも、雪を楽しむ魅力あるイベントやウインタースポーツなどが、まちににぎわいを与えています。
- ▶札幌型ライフスタイルの中から生み出される札幌・北海道の魅力を市民一人一人が再認識し、多様な手段により国内外に発信することで、世界の様々な人々が集い、交流しています。

私たちが 取り組むこと

市民・町内会・NPO・企業

- 札幌型ライフスタイルの積極的な発信

行政

- 市民や札幌を訪れる人々が雪を楽しむイベントやウインタースポーツの推進

など

現状と課題

これまでの札幌のまちづくりは、人口や産業の集中に対応するため、計画的に市街地を整備・拡大してきましたが、今後は、人口減少・超高齢社会の到来や地球環境問題の深刻化などに対応するため、大きな転換が求められます。

そのため、これからの都市空間の形成に当たっては、今ある都市の魅力と活力の向上を目指して、市民の多様なニーズを捉えるなど、きめ細やかな取組を積み重ねることが重要です。

また、急激な人口増加に対応するために整備してきた都市基盤¹⁶の老朽化が進んでいることから、適切な維持・保全や、人口動態や年齢構成の変化に応じた既存施設の再配置などの見直しが必要です。

現状と課題を踏まえた重要な視点

— 魅力と活力を持続的に高める集約型のまちづくり —

自動車を持たない高齢者なども安心・快適に暮らせるとともに、市民生活や都市活動のエネルギー効率を高めるためには、公共交通を中心とした集約型のまちづくりが必要です。

国内外から多くの人々が訪れ、様々な交流や活動が活発に展開される都市となるためには、札幌の顔である都心部の魅力と活力を高めるとともに、まちにうるおいを与えるみどり豊かな都市空間の創出や、良好な都市景観の形成が重要です。

また、人口減少・超高齢社会を迎える中でも、市民生活や都市活動を支え続けるためには、上下水道などの都市基盤施設¹⁷や市有建築物の計画的かつ効率的な維持・保全と併せて、特に市有建築物については、機能の複合化など、効果的かつ効率的な再配置が必要です。

基本目標の設定

基本目標

- 21 公共交通を中心とした集約型のまちにします
- 22 札幌の顔となる魅力と活力あふれる都心にします
- 23 都市の価値を高めるみどりを生かしたまちにします
- 24 都市基盤が適切に維持・保全されるまちにします

¹⁶ 【都市基盤】ここでは、学校や区役所などの建築物のほか、道路、上下水道、公園などの公共施設のことをいう。

¹⁷ 【都市基盤施設】ここでは、都市基盤のうち、建築物を除く道路、上下水道、公園などをいう。

基本目標

21 公共交通を中心とした集約型のまちにします

将来の まちの姿

- ▶ 都心や地下鉄駅周辺などに、多様な都市機能が集積され、交流やにぎわいが生まれています。
- ▶ 都心周辺部や地下鉄沿線には、利便性の高い暮らしの場が形成されており、一方、郊外住宅地では、ゆとりある良好な環境を生かした暮らしをしています。
- ▶ 日常生活に必要なことは身近な場所で行え、公共交通網により、多様な都市機能が利用できることで、自動車を運転しなくても困らない暮らしをしています。
- ▶ 市民が積極的に公共交通を利用し、エネルギー消費を抑えた社会となっています。

私たちが 取り組むこと

市民

- 公共交通機関の積極的な利用

企業等

- まちづくりの計画策定や活動への積極的な参画

行政

- 地域の特性に合わせた機能の誘導や施設の配置

など

基本目標

22 札幌の顔となる魅力と活力あふれる都心にします

将来の まちの姿

- ▶ 都心には、高次な都市機能の集積とともに、人を中心とした魅力ある空間が形成されています。
- ▶ 創造的な活動の発信など、文化と活力を創造する取組が展開されています。
- ▶ 豊かなみどりが充実し、うるおいや風格が感じられる都心にふさわしい街並みが形成されています。
- ▶ エネルギーの効率的な利用など、先駆的な環境低負荷型のまちづくりが展開されています。

私たちが 取り組むこと

市民・町内会・NPO・企業等

- 都心のまちづくりに関わる計画策定や活動への積極的な参画

行政

- 都心のまちづくりに関わる計画などの策定・推進

など

基本目標

23 都市の価値を高めるみどりを生かしたまちにします

将来の まちの姿

- ▶ 市街地では、みどりと、憩いや交流の場として活用されるオープンスペース¹⁸が十分にあり、市民に親しまれる良好な都市景観が形成されています。
- ▶ 市街化調整区域¹⁹では、森林や農地などの保全が図られているとともに、その特質を生かした土地利用が行われています。

私たちが 取り組むこと

市民・町内会・NPO

- みどりを保全・創出するためのまちづくり活動の実施・主体的な参加

企業等

- 市街地の質の向上や良好な都市景観の創出につながる空間整備

行政

- 市街地の質の向上や良好な都市景観の創出につながる空間整備の誘導・支援

など

基本目標

24 都市基盤が適切に維持・保全されるまちにします

将来の まちの姿

- ▶ 老朽化が進んでいく上下水道などの都市基盤施設や、市有建築物の計画的かつ効率的な維持・保全が進められています。
- ▶ 市有建築物については、機能の複合化など、効果的かつ効率的な再配置が進められています。

私たちが 取り組むこと

企業

- 地域ニーズに合わせた公共的サービスの提供を目的とした所有施設の活用

行政

- 市有建築物の集約化・複合化や、民間施設との連携などによる効果的かつ効率的な市有建築物の配置の推進

など

¹⁸ 【オープンスペース】ここでは、公園、広場、河川、農地、建築物の敷地内の空地など、建築物などによって覆われていない空間をいう。

¹⁹ 【市街化調整区域】都市計画法（第7条）により、都市計画に定める区域区分の一つであり、無秩序な市街化を防止するために、市街化を抑制すべき区域をいう。

1 基本理念と基本姿勢

戦略ビジョンの推進に当たっての「基本理念」と、私たちが一体となってまちづくりに取り組むための共通の「基本姿勢」を示します。

～ 札幌の未来をつなぐ子どもたちのために ～

基本理念

私たちは、一人一人の暮らしや地域・企業活動など、あらゆる場面において、常に札幌の明日をつくる子どもたちが、笑顔で生き生きと幸せに暮らす姿を思い描きながら、持続可能なまちづくりを進めていかなければなりません。

また、子どもたちを、ふるさと札幌・北海道の魅力を語り、更に磨き上げることのできる大人に育てていく使命があります。

そして、札幌に誇りを持ち、積極的かつ主体的なまちづくりの担い手に成長した子どもたちが、また次の世代に、このまちの魅力を引き継いでいくことにより、世代間の良好な循環を実現します。

市民が主役のまちづくり

地域主権型社会を実現するためには、まちづくりの主役である市民自らが、主体的に参加することが求められます。

そこで、私たちは、自分たちの地域のことは、自分たちで考え、自分たちの力で解決する市民自治のまちづくりを進めます。

- ◆市民一人一人の主体的な参画
- ◆多様な主体によるネットワークの推進

まちの活力を高める人づくり

札幌が今後とも魅力的なまちであり続けるためには、「人」がまちづくりの資源であり、新たな時代を担う推進力であると位置付け、それぞれの個性と能力を伸ばしていく必要があります。

そこで、私たちは、様々な場面において、市民一人一人が社会で活躍する力を養う人づくりを進めていきます。

- ◆地域や世界で活躍する札幌人の育成
- ◆市民が活躍できる環境づくり
- ◆未来を担う子どもたちへのまなざし

基本姿勢

北海道と共に発展する札幌

札幌と北海道の発展は、一体の関係にあります。

そこで、私たちは、札幌の魅力や経済活動が、北海道の人々、自然、資源などに支えられたものであり、札幌の発展は北海道と共にあることを常に意識しながら、北海道の中心都市としての役割を果たしていきます。

- ◆北海道の資源との連携
- ◆北海道内の経済循環の促進
- ◆北海道の魅力の発信

限りある資源の有効活用と共創²⁰

地球規模の環境問題への対応や高齢化の進行、都市基盤の維持・保全などにより、社会的な費用が増大していくことが予想される中、行政と民間の役割分担や連携を十分考慮しながら、社会経済情勢の変化に対応し、効果的なまちづくりを進めていくことが重要です。

そこで、私たちは、市民・企業・行政が一体となって、それぞれの知恵と工夫により、限りある資源を有効に活用し、相乗効果を発揮します。

- ◆官民の持つ力による共創の推進
- ◆世代間の公平性に配慮した資源活用

2

戦略ビジョンの効果的推進

戦略ビジョンを効果的に推進していくためには、資源を集中的に投下するなど、「選択と集中」により戦略的にまちづくりを進めていくことが重要です。そこで、社会経済情勢の変化を踏まえ、今後10年間で最も大きなパラダイム（価値観）の転換が必要となる以下の3つのテーマを選択し、集中的に施策を展開します。

【暮らし・コミュニティ】

高齢化の急速な進行による高齢単身世帯の増加や様々な要因による社会的孤立の顕在化が懸念されることなどを踏まえ、地域でのつながりや支え合いによる共助の意識を広く醸成し、さらに、それらを補完する仕組みづくりに取り組むことによって、いかに安心して暮らせる地域をつくり出していくかというテーマ

【産業・活力】

今後想定される人口減少は、地域消費型²¹の経済構造となっている札幌・北海道に深刻な影響を与えることが懸念されることから、北海道経済全体の活性化を見据えた上で、札幌・北海道の魅力や強みを生かしつつ、新たな付加価値を創造することによって、いかに足腰の強い経済基盤を確立させていくかというテーマ

【低炭素社会・エネルギー転換】

地球温暖化や東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、今後は低炭素社会と脱原発依存社会を実現していくことが、先人が築き上げてきた札幌の財産を未来に引き継ぐためには重要であることから、このために環境エネルギー政策をまちづくりの中核に位置付け、いかにエネルギーの大消費地としての責務を果たしていくかというテーマ

これらのテーマに沿った施策の方向性は、「戦略編」で設定します。

なお、課題認識と戦略設定は、時代の変化に迅速に対応する必要があることから、適宜中間点検し、戦略の追加・補正を行うなど柔軟に対応します。

²⁰ 【共創】 ここでは、まちづくりの取組の中で、それぞれの主体が目標を共有し、それぞれの持つ知識やノウハウを始めとする資源を最大限活用していくことをいう。

²¹ 【地域消費型】 ここでは、ある圏域において生産されるものや提供されるサービスを圏域内で消費する行動形態をいう。

表紙デザイン

札幌市立大学 デザイン学部
メディアデザインコース4年
澤出 有里さんの作品です



全体的なデザインは、札幌の象徴と言えるテレビ塔と、人々が集まってみんなで作り上げていくまちづくりをイメージしました。

札幌の美しい景観を守りながら、手を取りあって明るく可能性のあるまちを創造していくという思いを込めました。

背景に散りばめられた模様は様々な人が協力しあって、世界が憧れる札幌のまちを創造し続けている様子を表現しています。

札幌市まちづくり戦略ビジョン <ビジョン編> (平成25~34年度) 【概要版】

平成25年（2013年）6月発行

企画・編集：札幌市市長政策室政策企画部企画課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

電話 011-211-2192 FAX 011-218-5109

ホームページ： <http://www.city.sapporo.jp/kikaku/vision/>



さっぽろ市
01-A02-13-708
25-1-40



SAPPORO 2013-2022

SAPP_RO